

2020年11月1日

召天者追悼記念礼拝説教要約

主の日と私たち

(一テサロ二ケ5・1〜11)

一、主の日について

「主の日」という言葉をお語りしました。キリスト教会に馴染みの薄い方は「主の日って何のことだろう」と思われることでありましょう。主とは、神の名を指してこのように呼んでおります。ですから、「神の日」、あるいは「神がことを行われる日」と言い換えてもかまいません。

「主の日」の出どころは聖書です。「主の日」は、ふだんは歴史に介入なさらない神が、介入される日です。ですから、旧約聖書に書かれている「主の日」は、ほとんどが「大いなる恐ろしい日」の意味で語られています。例えば、イザヤ書13章6節には「泣き叫べ。主の日は近い。それは全能者からの破壊としてやって来る。」とあります。あるいは、ヨエル書1章15節には「ああ、その日よ。主の日は近い。全能者による破壊の日として、その日は来る。」という自伝です。そして、きょう開いた聖書の箇所にも「主の日」が書かれています。2節です。主の日は、盗人が夜やって来るように来ることを、あなたがた自身よく知っているからです。と。ですが、ここで語られている「主の日」は、イエス・

キリストがもう一度やって来られる日を意味しています。

二、主の日と再臨

キリスト教会にとって「主の日」は、恐ろしいばかりではなく、喜びの日です。その日を境に、新しい時代が始まるからです。それを聖書は、新しい天と新しい地とも呼んでいます。では、「主の日」はいつやって来るのでしょうか。分かりません。きょう開きましたテサロ二ケ人への手紙第1章2節に、主の日は、盗人が夜やって来るように来ることを、あなたがた自身よく知っているからです。とあります。あるいは次の節に、人々が「平和だ、安全だ」と言っているとき、妊婦に産みの苦しみが臨むように、突然の破壊が彼らを襲います。それを逃れることは決してできません。とあります。というわけで、「分からない」が答えです。だれも知りません。天の御使いも知りません。

ですが、神を信じる者は、恐れる必要はありません。いつ「主の日」がやって来たとしても、それはキリストがもう一度お出でになる日ですから、喜びの日です。キリストを信じる者が裁かれて、罪に定められることはありません。神であり、人として生まれてくださったイエス・キリストが、私たちの罪のために死なれたからです。神は、私共罪人

が受けなければならぬ裁きを、御子イエス・キリストの上に下されました。

三、恵みに生かされて

そこで、聖書のメッセージをお聞きください。9節です。神は、私たちが御怒りを受けるようにはなく、主イエス・キリストによる救いを得るよう定めてくださったからです。とあります。キリストを信じるなら、人生において不必要な恐れを抱く必要がなくなりました。人生というのは不思議です。どんな方でも一つや二つ、たいへんな問題を抱えておられます。ですが、キリストにあつて恐れはなくなりました。自分が犯した過ちのゆえに災いが起きた、と思う誘惑から解放されるからです。あるいは、先祖が犯した過ちのゆえに自分たちの家系は呪われている、と考える誘惑からも解放されているからです。

神は私たちの造り主です。私たち一人ひとりの霊を生み出されたお方です。いわば、霊の親です。私共の魂の親です。親の立場に立って考えてみられてください。自分の子供に対して何を思いますか。少しでもまちがいを犯したら、厳罰に処しますか。とんでもないです。子供がまちがいを犯しても、何としても子供が立ち返って真つ当な人間になるように、犠牲を払ってまでそうします。実はそれが、神が独り子なるキリスト

を、人として遣わされた理由です。神は、私たちが御怒りを受けるようにはなく、主イエス・キリストによる救いを得るよう定めてくださった。ので、神が遣わされた救い主であるイエス・キリストを信じるだけで救われます。これは神の定めですから、だれも変えることができません。ゆえに、私たちの思いからするなら愚かしく思えるかもしれませんが。ですが、このメッセージを変えようとはできません。出どころが天地万物を造られた神、すなわちイエス・キリストにおいて御自身をあらわされた父・子・聖霊なる神だからです。

神を信じるときに、人間がコントロールできない、得体の知れぬ恐れから解放されました。もちろん、小さな意味では日々心配ごとがあります。ですが神を信じますと、何がやって来ても現実を受け止め、対応する者となります。泣き寝入りをするという意味ではありません。言つべきことは言い、為すべきことは為します。ですが、「ああ、もうだめだ」と自分の人生を呪うことはありません。神の恵みに生かされているので、そのようになります。

やがて、私たちのこの世における人生は終わります。今の時代は、キリストが再び来られる出来事と共に終わります。皆様の上に、イエス・キリストの恵みが豊かにありますように、お祈りをいたします。